

項	育てたい子供の姿	重点目標(努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価(4点満点)	学校関係者からいただいた評価・意見等	改善策 左欄(学校関係者からいただいた評価・意見等)を踏まえての改善策には、下線
心豊かに神戸の子供を育む	仲間と共に豊かに学び未来を切り拓く子供	協働	山の子縦割り班活動・幼小連携教育	山の子タイムと称してツゲ池での活動や走ろう会、全校キャンプなどで異年齢集団の活動を行い、思いやりの心を育むことができた。学年の垣根を越えて関わり合うことが、自然に行われている。	4	いろいろと工夫しながら実施されており、今後も続けてほしい。	育てたい力を念頭に時期や内容を精査しながら継続していきたい。
			様々な表現方法で自分の考えを伝えあう授業づくり	コロナウイルス感染症の制限があったものの、ICTを有効活用しながら目的をもって友達と相談したり思いを伝え合う場面に授業内で設けるようにした。しかし、十分に聞き取り、伝えあうまでには至っていない。	3	特に評価、意見はなかった。	授業だけに限らず、休み時間や生活場面においても自発的にコミュニケーションの取れる児童の育成を目指し、適切に支援していく。
		能動	全校キャンプ・自然学校・全山縦走	職員の入替えに備え、丁寧に計画、準備することに努めた。行事を通してどのような力を育てるかを念頭に、クオリティを維持しつつ安全性の確保や不測の事態への備えを考慮し、いかに効率よく準備し、内容の取捨選択を吟味するかが課題である。	4	他の学校に比べ、年間これほどの行事をこなしている現状に驚いた。先生方の取り組みに感謝します。	本校の特色として、可能な限り継続していきたい。しかし、児童の実態や狙い、対時間効果、持続性など様々な観点で吟味し、今の時代とニーズにマッチした行事へと再構築していく必要がある。
			自発的・自治的活動の推進	既習事項や経験を生かし、自ら課題を持ち、主体的に取り組む子の育成を目指す。具体的に登下校やよくもく掃除といった場面において力を発揮できるように適切な手立てを打つ。達成度にはばつきがあるので、今後も継続的に取り組みたい。	3	特に評価、意見はなかった。	児童だけの場面でいかに自らが判断し活動できるかが大切。具体的な場面での言動の振り返りを大切に、手立てを打っていきたい。
		納得解の形成	健康・体力の保持増進	自発的に活動できる場としてロケーションの利を生かし、青空たんけん、クラブ活動、走ろう会、全山縦走、全校キャンプなど、年間を通して独自の取り組みを推進する。同時に自然の素晴らしさや友達との関わりあうことの良さや難しさを経験させる。	4	今後もロケーションの良さを生かし、継続してほしい。	特認校の特色を生かしつつも今までの「当たり前」を見つめ直し、継続可能な内容へと改善していきたい。
			少人数を生かした教育活動	少人数の利点を生かし、児童間の交流を活発化させる。伝え合う学び合うといった機会を増やし、力を合わせて新たな解を導き出す。これらの時間を確保することを保証することで、相手の思いや考えに寄り添い、尊重できる子の育成を目指す。	4	今後も少人数の良さを生かし、継続して取り組んでいく。	今後も伝え合い、学び合う機会を大切にしつつ、そこから自分なりの考えや判断を持てる子供の育成を目指す。
	研修目標	指導と評価の一体化～根拠のある評価の計画と取り方、評価を生かした授業づくりについて～	ICT・GIGAの積極的利用	児童の思考のツールやコミュニケーションツールとしての活用頻度が高まってきているが、教員ごとに習熟度に差があるのが現状。今後、活用事例を広く共有、情報交換しながら、プログラミング的思考を育むための授業づくり研修が必要。	3	ICT機器を使った新しい取り組みを続けてほしい。	研修および情報交換、実践事例を参考にICTを活用し、慣れる機会を増やして、授業力の向上を目指す。
			豊かな自然を生かした体験活動	青空たんけんやクラブ活動での六甲山探検やフナ林の保全活動など、ロケーションを生かした特色ある活動に工夫して取り組めた。今後は人や歴史にも絡めて体系的、教科横断的に学ばせていきたい。	4	今までの活動を継続しつつ、六甲山の施設や人を取り込んだ活動にしていけたらと思う。	より特色ある活動を目指し、六甲山系に暮らす人々の思いや産業、歴史にも触れ、体系的に学べる活動へとブラッシュアップしていきたい。
	安全・地域安心と共に楽しむ子供を学校を支える	いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)		生徒指導事案について、職員全体で情報共有する場を常日頃設けている。また、職員同士が担任の垣根を越えて密にコミュニケーションをとり、日常生活で気づいたことをすぐさま共有し、児童の対応に生かすことができた。	4	子どもたちが楽しそうに過ごしているという意見をいただいた。	早めの気づきと情報共有、迅速丁寧な初期対応を大切に、全児童を全職員で見るという体制を継続していきたい。
		超過勤務時間の削減・効果的な有給休暇の取得		当たり前を見直し、目的と効果を考慮しつつ業務内容のスリム化、効率化を図った。また、会議等も資料の事前配付、提案内容の精査、終了時間の目安設定など効率的かつ効果的にやるよう努めた。	3	特に評価、意見はなかった。	保護者や地域、職員の現状をバランスよく考慮しながら、業務内容をゼロベースで見直し、改善し、対時間効果の高いものとしていく。
新型コロナウイルス感染症関連			登校時の健康チェックカード提示、検温、マスク着用、換気、手洗い、うがいの指導、消毒、密の回避など基本的な感染症対策を職員一丸となって徹底できた。また、感染対策に係る用具、備品の充実も進めた。	4	今までの取り組みを継続しつつ、可能な範囲で通常通り行事や学習活動を行ってほしい。	感染状況や社会の情勢に応じ、現在の取り組みを油断することなく継続していく。	
「すぐる」の活用、ホームページにおける情報発信			すぐるの利便性を生かし、積極的に活用できた。また立地上、保護者が簡単に学校を訪れることができない。可能な限り学校の様子、子供の様子を知っていただく機会を作るためホームページの更新頻度を高めた。	4	ホームページを楽しく見ている、子供たちや学校の様子がよく分かってありがたいという意見を多数いただいた。	コンプライアンスを念頭に、引き続き情報発信の有用なツールとして活用していきたい。すぐるのアンケート機能などの活用も検討していく。	
登下校時の見守り運動(PTA・青少協等)			公共交通機関で通学している児童が8割を占め、乗車マナーの維持、向上が本校の課題である。PTAの協力で見守り当番を組織し、見守り活動をしていただき、効果が出てきている。	4	子どもたちが自分たちで声を掛け合い、マナーを守ろうとする姿が見られた。また、下校の様子を知ることができ、家庭でも話をするきっかけとなったという意見をいただいた。	今後も保護者と学校で連携をとりながら無理のないように継続したい。通学路の児童の様子を見てもらい、保護者間でも情報共有および啓発するよききっかけとなった。	
学校生活のルールや決まり(校則など)について			現状、内容の合理性や社会的通念に照らし合わせても特に見直す校則やルール見当たらなかった。保護者や関係者からも特に意見はなかった。	4	特に評価、意見はなかった。	保護者や児童の思いを知る方法を検討し、社会情勢に照らし合わせて柔軟に対応していきたい。	
学力の向上、体力の向上についての取組み			少人数の利点として意見交流を通して伝え合い学び合うという授業を実践しやすい。また、支援員とともに複数の目で丁寧に個別対応による。小規模特認による広範囲な校区、狭小な運動場および厳冬のため、年間を通じて継続的な体力向上の取り組みが困難である。	3	立地条件上、日常的な体力アップの取り組みは難しい。	学力に関しては現状を継続、体力に関して、立地的条件を考えながら現状に最適な手立てを考えていきたい。	
創る人がみんなが学校とづく	学校評議員会との取組みの違い		学校行事の規模縮小やあり方について、現状と課題を説明し教育的な効果を念頭に、持続的継続的に取り組める方法を地域の方々と議論した。	4	今後も学校と共に子供を見守り、育ていく体制を維持していく。	地域の方の意見を大切にしながらも現状の取り組みを維持していく。	
	育てたい子供の姿の共有		学校運営協議会の開催時に学校のビジョンを説明し、承認をいただいた。また、開催の都度、現状や課題を共有し理解していただいている。	4	今年度の体制を維持していく。	地域の方の意見を大切にしながらも現状の取り組みを維持していく。	
	親しみやすい学校づくり		立地条件上、地域が活動する場としては活用しづらい。防災教育に自治会の防災活動等を組み込むなど、地域とともに活動する内容を検討していく。	3	具体的にどのような取り組みができるか、議論を重ねていく。	地域と児童が関り、生活に根差した活動を学ぶ場を構築していけるよう、教科との絡みを交えながら検討していきたい。	
	子供を育む活動		六甲山特有の施設や人的資産を活用し、教科や学年を横断的に取り組める学習活動を行う。様々な機関との連携と年間を見据えた無理のない計画立案が今後の課題。	3	具体的にどのような取り組みができるか、議論を重ねていく。	様々な施設や人とのつながりを大切に、六甲山特有の学習活動を構築していきたい。	